

授業科目名 ( 英文名 )	専門基礎演習 ( Second-year Seminar )	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2
担当教員	西中 恒和	所属	経済学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	プレゼンテーション, レポート作成を通して, 根拠に基づいた論理的な ( 筋道の立った ) 主張・議論が展開できる能力を涵養する. 同時に, 社会事象と数学, 自然科学との関わりについての知見を広める.		
講義内容・授業計画	<p><b>【講義内容】</b>  前期では, ダンカン・ワッツの著作から各自の分担を決め, 分担内容のプレゼンテーション, レポート作成を行う. 元々数理科学者であったダンカン・ワッツは, 様々な社会現象を複雑なシステムと捉え, グラフ・ネットワークの手法を用いて問題を解明しようとする米国の社会学者である.  プレゼンテーションやレポート作成にあたっては, ワッツがどのような論理展開, 資料や先行研究を用いて自身の主張を根拠付けようとしているかを理解し, 解説できるよう留意する. また, フレーム問題, ミクロマクロ問題, スモールワールド問題等, 様々な社会事象に関わる問題については, 討論や意見交換を通じて理解を深める. また, 特に数学に興味のある者は, ツールとしてのグラフ, ネットワーク理論やカオス理論の基礎を学習し紹介する.  後期では, 前期の課題を終了したものから, 小論文としてのレポート作成, 完成を目指していく. レポート作成に際しては, 主張が説得力のある根拠を有するために, どのような追加的資料, 調査, 実験, 論理展開が有効であるかを試行錯誤しつつ共に考え, レポート作成にあたる.</p> <p><b>【授業計画】</b>  前期  1. 準備, ガイダンス  2. ~ 5. 課題発表・討論・レポート作成 1  6. グラフ, ネットワーク理論入門  7. ~ 10. 課題発表・討論・レポート作成 2  11. カオス理論入門  12. ~ 14. 課題発表・討論・レポート作成 3  15. 前期まとめ・後期準備  後期  1. 方向性の確認  2. ~ 5. 課題発表・討論・レポート作成 4  6. 数学的ツールについて  7. ~ 10. 課題発表・討論・レポート作成 5  11. 検証方法についての検討・討論  12. ~ 14. 課題発表・討論・レポート作成 6  15. まとめ</p> <p>要望に従って, レクレーション, 懇親会, ゼミ旅行等を行うことがある.  希望者には, 海外の研究者や学生との交流の場を設けることも考える.</p>		
テキスト	初回の演習にて, 以下からゼミで使用するテキストを決定する. CCCメディアハウス『スモールワールド・ネットワーク』, 早川書房 ( 文庫 ) 『偶然の科学』, 東京電機大学出版局『スモールワールド』, 森北出版『フラクタル・カオス・パワー則』, 岩波書店『多数決を疑う』坂井豊貴著, 牧野書店『あたらしいグラフ理論入門』.		
参考文献	上記テキスト候補の他, 早川書房『ファスト&スロー』 ( 上・下 ) ダニエル・カーネマン著, 村井章子訳, Atlantic Books『Everything is obvious』等, 演習の初回に紹介する.		

成績評価の基準・方法	演習での発表・報告，レポート作成への取り組みに対する評価が基準であるが，討論での発言や議論への参加の積極性も評価の対象とする．また，演習への出席日数が8割に満たない者には，原則として，単位を認定しない．
履修上の注意・履修要件	発表やレポート作成にあたっては，改善を求めて，やり直し，書き直し等を求めます．向上心をもって，それらに取り組める学生の参加を期待します．
実践的教育	
備考	